

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ゼミナールII Seminar II		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(公務員試験)	卒業後の進路として(地方)公務員を志望していること。 ゼミナールIを履修済みであること
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会基礎教養、法学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
日本国憲法、経済学				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
川副令	講義棟2階	初回授業で発表する		授業中に指示します
授業の概要				
地方公務員を志望する学生の学習支援を目的とする。ゼミナールIを履修済みであることを前提に、地方公務員試験筆記試験のうち、いわゆる知識試験の出題範囲(社会科学、人文科学、自然科学)についての過去問演習を行う。地方公務員の仕事への関心を高めるため、例えば公共施設やインフラの整理、空き家の相続放棄対策など、最近の行政課題などの話題を取り上げる。受講生は公務員を志望する理由を明確化し、自ら主体的に計画を立てて勉強を行うことができるようになる。				
授業の目標				
(1) 昨今の地方社会が抱える共通問題、地方自治体の行政課題、地方公務員の仕事の概要等を説明し、なぜ地方公務員になりたいか、志望動機を明確化できるようにする。(2) ゼミナールIで知能試験対策を行ったことを踏まえて、知識試験に関する過去問演習を行う。どのような問題が出題されるか、どのような勉強が必要になるかを考える機会を提供することを主眼にし、学生自身が着実に自分自身で勉強できるようにする。(3) 知能試験分野の対策が十分でない場合は、適宜時間を融通して、そちらの過去問演習に取り組む。				
授業の方法				
演習時間を、前半と後半に分ける。前半は毎回事前に予習範囲を指定して、受講生全員が同じ問題に取り組んだ上で参加する。また、各参加者に担当問題を割り振って、解答解説の発表を求める。後半はその場で問題を指定し、一定時間内に回答できるか、本番を想定した練習を行う。				
学習の成果(学習成果)				
地方公務員の仕事の重要性を踏まえた形で、志望動機を明確に説明できる。公務員試験の概要を踏まえた形で、自分に合った勉強計画を立てることができる。地方公務員試験(初級)の教養試験で出題範囲とされる社会科学系科目及び人文科学系科目について、基本レベルの問題を解くことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	公務員試験の概要確認、地方自治の動向、志望動機の確認			
第2回目	社会科学1: 政治思想、憲法の基礎			
第3回目	社会科学2: 統治			
第4回目	社会科学3: 基本的人権			
第5回目	社会科学4: 市場経済、国民経済			
第6回目	社会科学5: 財政、金融政策			

第7回目	社会科学6：最近の社会問題、レポート課題発表	
第8回目	人文科学1：日本近代史	
第9回目	人文科学2：日本現代史	
第10回目	人文科学3：世界史（アメリカと中国）	
第11回目	人文科学4：世界史（ヨーロッパ）	
第12回目	人文科学3：文化史	
第13回目	人文科学4：地理	
第14回目	自然科学1	
第15回目	自然科学2	
事前・事後学習	事前学習：必要なし。事後学習：各自練習問題に取り組むこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	出席状況のほか、毎回の問題への取り組み、質疑応答への参加等を総合的に評価する。
レポート	30%	課題を理解した上で、主体的に準備を行ったか、レポート全体の体裁は適切か等を、総合的に評価する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	40%	担当問題について、正解をしっかりと理解しているか、解説の準備が十分にできているか、他の参加者に伝わるよう適切な仕方での解説ができているか、を評価する。
その他		
教科書と参考図書		
『地方初級教養試験：過去問350（2017年度）』、『公務員試験：新・初級スーパー過去問ゼミ：社会科学』（いずれも実務教育出版）を共通教材とする。参考図書類は授業の中で紹介する。		
履修上の留意点・ルール		
毎回教材を持参すること。このゼミナールはあくまで学生自身による勉強を支援するものです。各自目的意識を持ち、主体的に学習に取り組んでください。		